

hand in hand

秋田県立大曲養護学校
地域支援部報 No.4
平成27年10月31日発行

特別支援教育講演会のお知らせ

日時：平成28年1月12日（火） 午後

会場：大曲養護学校 体育館

講師：大西 孝志（おおにし たかし）教授

演題：内容については検討中ですが、インクルーシブ教育システムや合理的配慮や基礎的環境整備等についてお話を伺いたいと考えています。

《講師の先生の紹介》

東北福祉大学 教育学部教育学科 教授

東京学芸大学教育学部特殊教育学科聾学校教員養成課程を卒業後、北海道内の聾学校に勤務され、平成16年に北海道立特殊教育センター研究員、平成18年から北海道教育庁空知教育局特別支援教育スーパーバイザー、平成20年から北海道教育庁学校教育局特別支援教育課指導主事を務められました。平成22年から文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官を務められ、「早期からの教育相談・支援体制構築事業」を推進されてきました。平成27年から現職に就かれています。

※後ほど案内を配布いたします。ぜひ、御参加ください。

地域支援文庫「hand in hand books」

☆図書紹介☆



『特別支援教育のとおき授業レシピ』

監修：藤原義博／柘植雅義

編著：筑波大学附属大塚特別支援学校

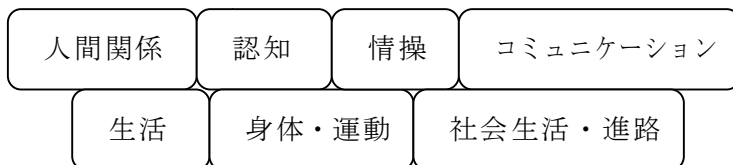
明日の授業どうしよう」と悩んだことはありませんか。特別支援教育で指導する《領域・教科》を7つに分け、「どんなことを」「いつ」「どのような順番で」学ばよいかをわかりやすく説明しています。領域ごとに整理された「学習内容表」で身に付けさせたい内容が一目でわかり、明日からの授業をサポートしてくれる1冊です。

[主な目次]

第1章 子どもに合った授業を考えるために

第2章 学習内容と授業づくりの実際

〈7つの領域に整理されています〉



※収録されている多くの単元計画に「わかる授業」をするための工夫がたくさん盛り込まれています。

大曲養護学校相談窓口

秋田県立大曲養護学校 TEL：0187-68-4123

教 頭：高橋 貢 地域支援部主任：栗谷川美和子
教育専門監：鎌田 誠 特別支援教育アドバイザー：岩田 智子
(大仙市立花館小学校)

せんぼく分教室 TEL：0187-42-8568

教 頭：松井 克彦 地域支援部：菅原咲希子



「ことば」について考える ～その2～

このごろ、よく「KY」という言葉を耳にすることがあります。これは「(その場の) 空気を読めない」ということを略して表した言葉のようです。「KY」と言われている人は、恐らく、その場の状況に合った振る舞いや言葉遣いをする事ができず、周囲の人と良好な関係を築けないこともあるのではないかと思います。この場合、「ことば」の問題としては「話し方」ではなく「つかい方」にあります。

このように、今回は、「ことば」の「つかい方」やコミュニケーションの問題について考えてみたいと思います。

「ことば」についての4つの視点

- 1 音韻 (いわゆる発音)
 - ・口や舌の「構え」や動かし方
 - ・リズムやアクセント
- 2 統語 (いわゆる文法)
 - ・いつ、どこで、だれが、どうした
 - ・助詞の使い方
- 3 意味 (いわゆる使い方→意味が通じるか)
 - ずっと昔のことだけど…
 - ×ずっときのうのことだけど…
- 4 語用 (いわゆるコミュニケーション→その場の状況、相手)
 - ・文脈、行間、立場、雰囲気…



コミュニケーションの問題

上記の4つの視点について、「1 音韻」は「話し方」ですが、その他の3つは「つかい方」の視点になります。「話し方」に問題がある場合はもちろん、「統語」「意味」「語用」の「つかい方」に問題がある場合、スムーズにコミュニケーションをすることができません。特に、「語用」の問題は、「KY」の例でも示した通り、対人関係の問題にまで発展する場合があります。

次の例で、コミュニケーションの問題について考えてみたいと思います。

花子さんから太郎くんへの電話
花子「今日、そっちの天気はどう？」
太郎「外は大雨が降ってるよ。」
電話の直後のお母さんとの会話
母「ねえ、ちょっとおつかいに行ってきたくない？」
太郎「外は大雨が降ってるよ。」



花子さんへの返事は、まさに「大雨が降っている」という文字通りのことではしょうが、お母さんに対しては、言外に「行けない」「行きたくない」という否定的なニュアンスが込められています。同じことを言ったのに、状況によって意味が変わってくるのです。相手がお母さんだったので「しょうがないわね。」で済むかもしれませんが、もし、これが職場の上司だったらどうだったでしょうか…。